自己点検・自己評価報告書（令和７年度）

学校法人瓶井学園 日本メディカル福祉専門学校
こども福祉学科（通学２年課程）
令和８年４月１日作成

１　学校の教育目標

こどもにとって重要な乳幼児期に関わる専門職として、保育の現場で必要となる専門知識・技術を持ち、こどもの気持ちに寄り添いながら、こどもを取り巻く種々の環境を調整するための的確な判断と対応ができる優れた保育士を育成する。

また、少子化が進み、家庭や地域での子育て力の低下が指摘され、こどもだけでなく保護者に対しても個々の状況に応じた支援が求められているなか、社会福祉士国家資格や幼稚園教諭免許状を併せて取得し、ソーシャルワークのスキルを持った保育士として専門的かつ実践的に対象者に関わっていくことのできる人材を育成する。

２　令和７年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 保育に携わるものとして求められる公共心、コミュニケーション能力の向上を図る。
(2) 有識者や保育現場等の関係者からの意見を取り入れた教務運営・授業を行い、より実践的な知識・技術修得、保育士（専門職）としての価値観を身につけることができるように支援する。
(3) 職員が研修に積極的に参加することにより、教育の質の向上を図る。
(4) 全職員が一人でも多くの入学生を確保するための広報活動に積極的に取り組む。
具体的にはオープンキャンパスにおいて体験実習を行い、保育実践への理解と関心が深まるように工夫する。又、ホームページやSNS広報の充実を図るなどして、本学科（教育理念の発信や幼稚園教諭免許状取得サポートなどの取り組み）の認知度向上に取り組む。さらには、オンライン説明会により、個別で相談を継続する。
(5) 卒業に向けた学生支援や進路指導の充実を図り、学生の希望が実現できるように情報収集と個別指導を徹底する。個別相談をベースに早期からの就職支援を希望する学生には、適宜情報提供等を実施していく。
(6) 在校生・卒業生・保護者、実習先や地域社会に対し、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信、実践を行う。

３　評価項目の達成及び取組状況

大項目	小項目	評価の基準	自己点検	評価員
項目１ 教育理念・目的・ 目標	1 教育理念、目的及び目標の 設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3	
項目２ 教育課程、教育の実施、学修成果	1 教育課程の編成と授業科目	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために 必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程 を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を 配置していること。	3	
	2 教育の実施	①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技 など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教 材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価 を行っていること	3	
		②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下 「実習・演習等」という）の授業を行っていること。教育 目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位 時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に 設定していること。	2	
	3 単位・卒業 認定	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必 要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能 力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき 卒業の認定をしていること。	3	
	4 学修成果目標の達成状況	卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技 能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	3	
		学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達 成できていること。	3	

【総括・特記事項】

・1-1 について…学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員が熟知し、折に触れ学生に伝えている。対外的にはホームページ、学校案内などに本校の教育方針と特色（アドミッション・ポリシーなど）を記載しており、概ね周知されている。

・2-1 について…各科目の指導内容・方法等は授業概要を作成し、学生に配布している。各科目のシラバスでは、主に授業目標、授業内容及び担当教員名、成績評価基準などを明記している。

・2-2 について…講師要件を備えた教員が学生の特性に配慮した授業を展開できるようにしている。特に実践力を身につけるための演習科目は、複数名の教員を確保している。一方で関連分野（保育現場）の教授を通常授業だけではなく、特別講義のような形で実施することは継続的な課題である。

・2-3 について…単位認定や卒業要件を明示するとともに、各担当教員は厳密に成績評価を行い、判定会議を経て単位認定を行っている。

・2-4 について…厚生労働省が指定する保育士養成施設として、保育士資格を履修者全員が修業期間(2 年)内に取得した。また、保育士養成コース（長期高度人材育成コース）の委託事業を積極的に受託し、保育士の人材不足に対する解決策として訓練を行ってきた。なお、令和 7 年度は 15 名の

修了生を輩出した。一方で、高校卒以上の入学者には幼稚園教諭 2 種免許状を併せて取得できるコースを設定しており、1 年生（希望者 3 名）の学習サポートを行っていたが、3 名とも幼稚園教諭 2 種免許状については退学を選択することとなった。
学生が進む進路の実現については、令和 7 年度も就職希望者全員が就職することが出来た。ついては、各々が明確な希望を持ち、就職活動に臨めるように相談を丁寧に行った。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検	評価員
項目３ 生徒の受入れ生徒支援	1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決 定していること	3	
		②学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	
	2 自主的な学習の促進に対 する支援 △	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を 行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習 に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な 学習に関する適切な支援を行っていること。	3	
	3 多様な学生に対する支援 △	適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っ ていること。	3	
	4 学生生活に関する支援	①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること	2	
		②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	
		③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	
		④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 △	3	
		⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること	3	

【総括・特記事項】

・3-1 について…入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。また入学選考面接については、複数担当者にて実施している。

・3-2 について…学業成績不良者について、学校生活や成績などで気になる点がある場合は直接指導を行う他、保護者にも定期的に連絡をとり、支援を行っている。

・3-3 について…学生が心身ともに健全な学生生活を送る為に、担任等が定期的に個人面談を行い、対人関係、学業などの悩みがある場合は積極的に対応している。

・3-4-①について…カウンセラーの配置や相談室の設置はしていないが、担任が学生 1 人ひとりの様子を把握し、課題のある学生については教務で相談しながらサポートしたり、サポートできる限界を感じた場合は、他科に従事している精神保健福祉士の教員に相談できる体制は作っている。

・3-4-②について…学業成績不良者について、学校生活や成績などで気になる点がある場合は直接指導を行う他、保護者にも定期的に連絡をとり、支援を行っている。

・3-4-③について…親元等から離れ、一人暮らしをしている学生についても生活環境を把握するように努め、状況に応じ、対応を行っている。

・3-4-④について…雇用保険加入歴のある学生には「専門実践教育訓練費および教育訓練支援給付金」の利用を勧めている。また、平成 28 年度に創設され各都道府県社会福祉協議会が担当する「保育士修学資金」の利用を勧め、経済的に安定した学生生活が送れるように支援している。学園独自の奨学金（入学金全額免除・授業料一部減額）は、該当者全員が利用している。

・3-4-⑤について…就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、求人の情報提供や履歴書添削、面接指導等、就職に向けての個別指導を十分に行い希望職種・希望施設への就職が実現できるように関わっている。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検	評価員
項目４ 教育実施組織・ 教員	1 教員の配置、募集、採用	①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	3	
		②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。△	2	
	2 教員の組織編制等	①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	3	
		②教員間で連携、協力体制を構築していること△	2	
	3 教員の資質の向上	①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	2	
		①-2 特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	2	
		②教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	2	
項目５ 教育環境	1 教育環境の整備	①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	3	
		②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保 していること。△	3	
		③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。△	3	
	2 安全対策、防災組織	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	
		②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。△	2	
	3 施設・設備等の点検、改善等	①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行 っていること。△	3	
		②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に 実施していること。△	3	

【総括・特記事項】

・4-1-①について…「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識・技能レベルが充足した教職員を確保できている。

・4-1-②について…教員の教授力については、定期的に授業の様子を見にいったり、授業後にどうだったかを問いかけたりしながら、その都度、学生の学びに繋がるよう情報交換を行っている。また、前期・後期に学生へ講義アンケートをとり、そこであがった学生の意見を伝え、今後の授

業展開に活かしていけるようにしている。課題としては、教員にも教授力の個人差があり、自信を失くしてしまうこともある為、上手くできている事に加え、更に新たなチャレンジに向けて意欲を高められるようなサポートが必要である。

・4-2 について…定められた運営方針（事業計画）は、定期的に管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達し計画に沿って業務を行っている。教員間の連携においては、産休・育休・体調不良で休職する教員がおり、その穴埋めをみんなで連携してきたが、報・連・相の抜けがあったり、それぞれの教員の業務の把握ができていないこともあった。
・4-3-①について…個人ならびに学科としての自己点検・自己評価を実施し、昨年度の問題点の改善に取り組み、一定の成果を上げている。
・4-3-②について…企業との連携、外部研修などは令和 7 年度の参加が少なかった。時代は変わっても保育の根っこは変わらないが、保育士に求められる役割や、保育を取り巻く環境が変化し、保育のやり方も柔軟に対応していかなければならない為、内部研修を含め、さらなる研修の参加や自己研鑽、教授内容への反映が課題である。
・5-1-①について…厚生労働省令や指定保育士養成施設　設置基準に沿った施設・設備を整備すると共に、科目に必要な機械器具などを用意している。
・5-1-②について…学生からの要望や要求に応じ、自習室や音楽室を開放し、学習支援の為の環境は常に提供している。
・5-1-③について…専門分野における最新の参考図書をなるべく揃え、学生に自由に触れられるようにしたり、閲覧できるようにしている。しかし、利用する学生は少なく定期的に学生への案内をしていく必要がある。
・5-2 について…防災については、消防署による定期的な検査・点検を受け法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。なお、災害被害を想定した具体的な訓練・役割分担の見直しは継続的な課題である。
・5-3 について…毎日学生が下校後に施設・設備の定期点検を行っている。また、教員ごとに校舎管理が分担されており、何かあれば報告を受け、早急に改修を実施している。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検	評価員
項目６ 教育活動の基盤 と改善・向上の取組	1 中期事業計画と財務基盤	①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	
		②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	3	
	2 学校運営	①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設 計・運営等）における責任体制を含む。）。	3	
	3 学校評価の実施と改善活動	①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。△	3	
		①-2 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年２回以上開催していること	3	
		②学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	
		③学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	3	
	4 社会からの理解と情報の公表	①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況 に関する情報を積極的に公表していること。	3	
		②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。△	2	

【総括・特記事項】

・6-1 について…中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。また、学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。さらに財務について、会計監査が適正に行われている。なお学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

・6-2 について…法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。又、各部門において会議等を行い、設置基準等の正しい理解に努め、運営を行っている。

・6-3 について…年に１回学校関係者評価委員会、職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年２回以上開催し、各委員からの意見を反映しながら学校運営を行っている。なお、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行なっている。

・6-4 について…入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全職員が適正な学生募集活動（オープンキャンパスや高校ガイダンス・電話やメールでのお問い合わせ対応など）も行っている。
また、高校ガイダンスに学科職員が出張し、当科の特色や保育士の魅力を説明し、学科内容の周知に繋がった。但し、まだまだ当科の認知度が低く、学生獲得の成果に繋がっていない為、SNS などで当科の教育内容を数多くの方に知ってもらうことが必要である。

4　昨年の委員の方からの主なご意見に関する活用

（1）保育士養成施設での学びを目指す学生の減少について（北野委員）

・ここ 10 年～20 年の間に大学の定員が 7 割となり、学校運営が難しくなる為、今のうちに統廃合しなければならないというニュースが流れている問題

・学校運営において統廃合するのか、生き残るかの選択が迫られていて、選択肢を見誤らないようにしなければならない。生き残るために、他校との差別化や学校の特色をきちんと理解しなければならい

当科の状況

・本科生の入学者が減少し、現在は大阪府の待機児童解消施策として行われている職業訓練「長期高度人材育成コース（保育士養成コース）」を受け入れざるを得ないのが現状。

・令和 7 年度は、ダブル（保育士・幼稚園教諭免許）資格を目指す学生が 3 名いたが、トリプル（保育士・幼稚園教諭免許・社会福祉士）資格を目指す学生は残念ながらいなかった。

今後の予定

・継続的な高校へのガイダンス出張や、大学などに DM 発送はしているが、それだけでは当科の特色が周知しづらい部分があり、なかなか学生獲得に繋がっていないのが現状である。その為、インスタグラムや Tik Tok などショート動画の投稿頻度を上げ、他校にはない当科の特色や教育内容を認知できるようにし、オープンキャンパスにつなげ、学生獲得を増やしていきたい。

（2）専門職（保育士）養成教育（北野委員）

・欠席をする時は連絡をする、約束を守るということは社会性の第一歩であり、本来なら小学校の間に両親が教えなければならないが、失敗をしないように親が教えてしまっている。失敗から学べることが多いため、失敗を恐れないこと、諦めないことが大切。

当科の状況

・社会人としてのマナー（挨拶・身だしなみ・授業態度・報告・連絡・相談）の大切さについては授業に限らず、常日頃から繰り返し伝えている。

・保育実習は保育に関する基礎的な理論や保育技術を学ぶとともに、実習を通して実践的な知識と技能を体得していくことが目的だということを伝えている。失敗がダメではなく、失敗から気づき、次にどうつなげていくかが大事だと伝えている。

今後の予定

・自己の考えや保護者としての立場を大切にしながらも、その考えが全てではなく、色んな考え方や意見があること、また保育は柔軟な対応力が大事だということを授業で伝えていきたい。

・学生の中には失敗を嫌がったり、不安になる学生がとても多い。その為、実習では消極的になり自信をなくしてしまう姿がある。ネガティブな気持ちを受け止めると共に、だからこそ細かな準備を丁寧にしていくことや、今取り組んでいる大変なことが、後に成果として達成感や満足感が得られるように、1 人ひとりの学生に応じて努力を継続できるようにしていきたい。

（3）学生支援・学習支援（北野委員）

・意思の伝達について、スマートフォンに頼るのは今の世代には仕方がないことではあるが、保護者には極力、子どもにスマートフォンを触らせないようにと伝えている。自分で考える力を養ってほしい、時間がかかってもよいから自分で解決するように導くようにしている。

当科の状況

・令和７年度に関しては学びに関するモチベーションが低い学生や中・高の復習からやらないと授業が分からない学生が入学してきている。専門知識について大事なところはノートに書き写すように声をかけている。

今後の予定

・声をかけないと自ら行動していくのが難しいところがある。個別に繰り返し声をかけていきながら習慣づくようにしていく必要がある。

（４）退学者の授業料について（太田委員）

・神戸学院大学に生活困窮などで窓口に相談に訪れる学生がいると職員から相談があった。
もし宝塚市に住んでいる学生がいれば一緒に考えることができる。

当科の状況

・奨学金を借りていたが、使ってしまい、授業料が支払えなくなってしまったという学生は今のところいない。

今後の予定

・専門実践教育訓練給付金や保育士修学資金貸付制度・高等職業訓練促進給付金など制度案内を行い、利用促進を進めている。現時点では、授業料が支払えなくなった学生はいてないが、実際にそういった学生が出た場合は相談していきたい。

5　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果（令和 7 年度の評価結果と令和 8 年度の目標や計画）

（1）教育理念･目標

・厚生労働省が指定する保育士養成施設としてカリキュラムに則った教育を実施し、授業内容、資格の内容等明確に目標として定められている。保育の専門性を備え、現場で即戦力として活躍できる人材を育成していきたい。

（2）教育課程、教育の実施、学修成果

・保育現場との連携により、配属実習前の観察実習の実施などを行ってきた。但し、現場職員（保育所・施設保育士）による講義などは実施出来ていないのが課題である。
・就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、希望職種・希望施設への就職が実現した。また資格取得率については全員卒業（保育士資格取得）をさせることができた。一方で、令和 7 年度は、本科生 1 年生 1 名退学、保育士養成コース 1 年生（長期高度人材育成コース）4 名退校となった。また、高校卒以上の入学者には幼稚園教諭 2 種免許状を併せて取得できるコースを設定しており、1 年生（希望者 3 名）の学習サポートを行っていたが、3 名とも幼稚園教諭 2 種免許状について退学となったのが課題である。

（3）生徒の受け入れ生徒支援

・学校生活や就職に関する相談は担任が受け、一人ひとりの状況に応じた対応を即時でとることを心がけた。
・学業成績不良者について、学校生活や成績などで気になる点がある場合は直接指導を行う他、保護者にも定期的に連絡をとり、今後も支援を行っていきたい。

（4）教育実施組織・教員

・定期的に管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達し計画に沿って業務を行っている。教員間の連携においては、産休・育休・体調不良で休職する教員がおり、その穴埋めを全体で連携してきたが、報・連・相の抜けがあったり、それぞれの教員の業務の把握ができていないこともあった。業務分担・責任体制・連携・協力体制など今一度再構築していきたい。
・外部研修や企業との連携などの参加が令和 7 年度は少なかった。時代の流れによって保育を取り巻く環境が変化し、保育士に求められる役割や、保育のやり方など柔軟に対応していかなければならなくなった。内部研修を含め、さらなる研修の参加や自己研鑽、教授内容への反映が課題である。

（5）教育環境

・防災について法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。又、授業内において避難訓練や災害対策などに触れ、職業人としての防災教育を行っている。ついては、避難経路を含め、実地での訓練を行うことが継続的な課題である。

（6）教育活動の基盤と改善・向上の取り組み

・ホームページや SNS の更新を行ってきたが頻度が少ない。ついては、授業の様子を動画投稿したり、当科の特色である大学卒業者に向けての教育理念（トリプル資格取得・ソーシャルワーク保育士の養成）などの学科特徴をさらに PR していくなどして投稿頻度を上げていくことが課題である。また、高校ガイダンスなどでも当校の特徴を伝えていき認知度をあげていく必要がある。

６．こども福祉学科において委員の方々にご意見をいただきたい課題

（１）組織の体制作り

学科を統率する為、教職員連携や役割分担、新任育成など工夫していることや留意点などを聞かせてほしい